25 journal
society&business Tokyo25 journal
執筆協力 編集室システムU　okamura.nobuyoshi@gmail.com

日本航空学園青梅で「航空祭」

展示飛行やCAカフェ、ドローン体験、精鋭特殊技能交流も

日本航空学園青梅キャンパス（青梅市長淵2）で10月18日・19日、「日本航空学園 ACADEMY FESTIVAL（航空祭）」が開催される。両日、展示飛行やドローン体験、ステージショー、多数の模擬店、飲食ブースなどで丸1日楽しめるプログラムが用意された。

同学園は昨年1月の能登半島地震で、石川県輪島市から青梅市にキャンパスを移転している。同キャンパスでの「航空祭」は昨年に次いで2度目。能登復興への願いを届けるとともに地域住民との交流の場になる。

両日、ヘリ遊覧飛行（有料）やパラモーター展示飛行、「Wing Dance Company（ダンス部）」のダンス・「Wind Orchestra Company（吹奏楽部）」の吹奏楽・書道部のパフォーマンスなど多彩なステージショー、留学生との交流やドローン体験などが楽しめる。大学校生・高校生による多数の模擬店、飲食ブースのほか、昨年に次いで「能登の物産販売」コーナーも設けられる。

注目は初企画の「DEET精鋭特殊技能交流トーナメント」（10月18日のみ）。元自衛隊特殊部隊員、海上保安庁特殊部隊員、現役消防士などが一堂に会し、鍛え上げた技術と体力を競い合う精鋭特殊技能交流トーナメント。迫力あるパフォーマンスが目の前で見られる。

女子中高生をはじめ幅広く人気を集めるCAカフェは、大学校のキャビンアテンダント・グランドスタッフ志望の学生たちがドーナツやドリンクを販売し、心を込めてもてなす。

両日とも日本航空大学校・高校の入学相談ブースが開設され、入学に関する質問・相談を受け付ける。18日は高校のオープンキャンパスも開く。

「航空祭」の開催時間は両日とも9時～16時。駐車場に限りがあり、公共交通の利用を。河辺駅南口からシャトルバスを運行する。

「航空祭」への来場を呼びかける学生たち（上）
大学校生・高校生による多数の模擬店も（右）

精鋭特殊技能交流

ヘリ遊覧飛行（有料）

昭和プロレスを広く紹介

青梅・西友河辺店で「ストロング小林展」第2弾開催へ

「ストロング小林展第2弾 懐かしき昭和プロレス展」が10月10日から西友河辺店（青梅市河辺町）で開催される。2023年12月に開いた同名展の続編となるもので、前回伝えきれなかったストロング小林選手の偉業をさらに掘り起こすほか、力道山からタイガーマスクまで「昭和プロレスの素晴らしさ」を伝えるものになるという。

青梅市出身の小林選手（本名＝小林省三）は2021年12月に81歳で亡くなった。1940（昭和15）年、東京・本郷生まれ。戦争で青梅に疎開し、同市で育った。

25歳の時にボディービルの会場で国際プロレスの吉原功社長にスカウトされ入門。1967（昭和42）年、日本人初の覆面レスラー「覆面太郎」としてデビューした。その後、素顔となりリングネームを「ストロング小林」に改名。欧米のマットを転戦し、実績を残した。

凱旋（がいせん）後は国際プロレスのエースとして活躍。1971（昭和46）年にはIWA世界王座を奪取した。1974（昭和49）年3月、蔵前国技館でアントニオ猪木戦に臨み大注目を集めた。1975（昭和50）年には新日本プロレスに入団し、以後新日本のリングに立ち続けたが、1981（昭和56）年から腰痛を悪化させ長期欠場に入り、1984（昭和59）年、福生市体育館での試合を最後に現役を引退した。

会場では、写真、パンフレット、ポスター、等身大のパネルのほか、関わりのある遺品などを展示。小林選手をはじめ力道山、ジャイアント馬場、モンスターロシモフことアンドレ・ザ・ジャイアント、ビューティー・ペアらの勇姿も伝える。

実行委員長の持田一博さんは「小林選手と昭和プロレスのすごさを垣間見られる展示になる。マニアはもちろん、一般の方にも驚き、楽しんでもらえると思う」と話す。

展示会の準備を進める持田さん

羽村市郷土博物館開館40周年

「生誕140年　中里介山展」記念展および講演会開催

羽村市郷土博物館（羽村市羽）は開館40周年記念として10月1日から「生誕140年 中里介山展」を開催する。文豪・中里介山に関する記念展示と記念講演会を行う。

同郷土博物館は1985（昭和60）年4月に開館。市民の文化的創造を育む「学び」の場として親しまれてきた。同市の自然・風土・歴史・文化に関係する資料の収集、保存、調査研究を行い、成果を展示や学習会、資料の刊行などを通じて公開している。

介山は若い頃は社会主義に傾倒し、日露戦争下には「平民新聞」に反戦詩を発表した。1906（明治39）年、都（みやこ）新聞社に入社。文筆の才を発揮し、「氷の花」「島原城」などの連載小説を手がけ、代表作「大菩薩峠」は後の大衆文学に大きな影響を与え、映画にもなった。晩年は羽村に「西隣村塾」を開き、文壇から離れて「超然とした」生活を送った。1944（昭和19）年4月28日、59歳で亡くなった。

展示は、介山の出生から晩年までを実物資料や写真で振り返る。「大菩薩峠」は直筆原稿や挿絵の原画などを展示し、紹介する。開催時間は9時～17時。12月7日まで。入館無料。

10月12日にはプリモホールゆとろぎ（同市緑ケ丘）で「異能の人・中里介山 -『大菩薩峠』をどう読むか」と題し、日本大学名誉教授の紅野謙介さんが記念講演を行う。14時～16時。受講無料。

開催時間は10時～18時（最終日は17時まで）。入場無料。10月15日まで。